

植物学者 牧野富太郎の宇宙

支倉千賀子

牧野富太郎と時代の年譜

西暦	年号	年齢	牧野富太郎と周辺のできごと
1853	嘉永 7		ペリー浦賀に来航。
1854	安政 元		ペリー-日米和親条約締結のために再航。
1860	万延 元		桜田門外の変(幕府大老井伊直弼暗殺)。
1862	文久 2	0	4月24日 土佐国高岡郡佐川村(現高知県高岡郡佐川町)に生まれる。
1865	元治 2	3	メンデル「遺伝の法則」発表。アメリカ南北戦争実質的終結。
1868	明治 元	6	慶応4年をもって明治元年とする。
1884	明治17	22	上京し、帝国大学理学部植物学教室に出入りする。
1889		27	日本ではじめて「ヤマトグサ」と学名をつける。
1893		26	31 東京帝国大学理科大学の助手となる。
1900		33	38 『大日本植物志』第1巻第1集を刊行。パリ博覧会の出品目録に日本のタケをまとめる。
1912		45	50 東京帝国大学理科大学の講師となる。
1916	大正 5	54	『植物研究雑誌』を自費で創刊する。「坪井日本竹類図譜」に学名入れる。
1926		15	64 東京府北豊島郡大泉村土支田557(現在の練馬区立牧野記念庭園)に居を構える。
1927	昭和 2	65	理学博士の学位を受ける。
1928		3	66 「スエコザサ」を命名する。
1937		12	75 朝日文化賞を受ける。
1939		14	77 東京帝国大学理学部助手・講師を勤続47年で辞職する。
1940		15	78 『牧野日本植物図鑑』を刊行。
1951		26	89 第一回文化功労者となる。
1953		28	91 東京都名誉都民に推される。
1957		32	94 1月18日 満94歳で没す。没後、従三位勲二等旭日重光章および文化勲章が授与される。
1958		33	高知県立牧野植物園開園(4月)。練馬区立牧野記念庭園開園(12月)。
2007	平成19		没後50年
2022	令和 4		生誕160年
2057		39	没後100年
			参考: 牧野富太郎年譜 練馬区立牧野記念庭園HP

山)、トリガタハンショウヅル(鳥形山)など地元の山の名を冠した植物も多い。本草学者で医師の大倉遊仙や旧制高知高等学校の教育者だった吉永悦郷(よしさと)・虎馬兄弟、医師で植物研究家の上村登など土佐の人々は、青年時代から牧野を歓待し、指導を受けた。土佐の自然と人が牧野を植物学者として世に送り出したともいえる。

一方、こうした研究方法は現在にいくつかの課題を残している。東京大学総合研究博物館の植物分類学を専門とする池田博さんは、「牧野の膨大な標本の多くは整理され一般公開されるようになったが、学名のもとになった基準標本の確定など基本的であるが重要な研究はまだ終わっていない」と言う。

牧野の論文にはこれが基準標本であるという情報が少なく、40万点の中から見つけ出して確定するのは至難の業だ。牧野富太郎のつけた学名は古く基本的なものが多いだけに、今世界で進められている地球上の全生物種を一覧にする生物多様性の解明の指針となる。しかし、基準標本についての海外からの問い合わせに十分に対応できていないのが現状だ。

一部公開されている牧野の日記には、いつどこでどんな植物を採取したかや誰に会ったかなど細かく書かれている。基準標本の探索に欠かせない情報であるが、これにも記録の欠けは少なくない。指導を受けた人の日記や手元に残る書簡などから標本の採集情報を補うことができれば、学術的な研究も進みやすい。人物牧野に詳しい練馬区立牧野記念庭園の学芸員、田中純子さんは「牧野に宛てた書簡は牧野記念庭園や高知県立牧野植物園に所蔵されている。一方で牧野が送った書簡などは現在も各地の牧野と交流した人々やその遺族、地方の博物館が持っている、一般に出てこないものが圧倒的に多いが、どちらもまだ研究されていない」と指摘する。

日本の代表的な植物学者と言えば牧野富太郎の名前が挙がる。多くの植物学者の中で牧野の名が出るのは、日本の植物学の草創期から40万点にも及ぶ植物標本を集めて研究し、学名のついた植物図鑑を出版したからだ。

牧野は東京帝国大学理学部に助手や講師として47年間も務めた。だが、これほど多くの標本(精力的に採集可能な年数を50年として年間8,000点)を集めることができたのは日本全国の植物採集会で地元の研究者や愛好家と絆をつくったことのほうが大きい。

参加した人々は現地を案内して指導してもらい、牧野は自分で採集した標本を論文に引用することができた。牧野の写真は意外に多く残るが、こういった会の人たちが記録として撮影したものだ。

元高知学園短期大学教授の寺峰孜さんは、「特に生まれ故郷の土佐高知には何度も足を運び、多くの人と生涯かわり続けた」と言う。たとえば日本の学術雑誌にはじめて学名が発表された日本固有種の「ヤマトグサ」は秋田県から熊本県まで点々と分布するが、高知で最初に発見されている。ヨコグラノキ(横倉山)



写真1 採集した植物と野冊を前に。牧野博士(右) 吉永虎馬先生(左) 上村登先生(中) 昭和13年12月14日(吉永眞弓氏提供写真)

牧野は自分を植物の精と称し、植物採集にいそしんだ生き様を「草を褥（しとね）に木の根を枕 花を恋して五十年」と詠んだ。生涯にわたり日本全国の人々と交流した研究方法は、いまでも牧野を日本の代表的な植物学者たらしめている。その足跡は、手紙やはがきだけではなく一緒に歩いた峠や山道、泊まった宿、降りたった駅や港など日本各地に時間を隔てはるか遠い「宇宙」の星のようにあり続けている。